2025年2月1日発行（毎月1回・1日発行）第454号
公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会編

月刊

シルバー人材センター

高齢社会を生きる

◆インタビュー 人生100年時代の高齢者〈生き方・支え方〉
大正大学教授　宮崎牧子

◆特集 最近の接遇・ハラスメント防止等研修

2025
2

労務行政

センターだより

命を救う応急手当 会員向けの応急手当講習会

公益社団法人厚木市シルバー人材センター（神奈川県）常務理事兼事務局長　府川浩明

住みたい街第1位

厚木市は、神奈川県のほぼ中央に位置し、都心からのアクセスも良く、業務核都市として発展してきました。一方、相模川や緑豊かな丹沢山麓など自然にも恵まれ、美肌の湯として有名な「あつぎ温泉郷」もあります。

「都会と自然が共存するまち」厚木市は、不動産・住宅情報サイトの住みたい街ランキング（首都圏版・借りて住みたい街）で4年連続1位に選出されています。

センターの概要

厚木市SCは、昭和52年に発足した高齢者事業団を改組し、平成元年に設立されました。令和5年度の会員数は1023人、契約金額は約4億7000万円（労働者派遣事業を含む）でした。

令和6年11月から、フリーランス新法の施行に伴い新契約方法（三者間の包括的契約）に移行しています。

応急手当の必要性

センターでは、平成15年度に初めて厚木市消防本部の職員を講師として招き、「応急手当講習会」（以下、講習会）を開催しました。

平成13年度から15年度にかけて、センターの会員数は913人から1117人に、契約金額は2億7700万円から3億5100万円に増え、順調に事業が拡大しました。しかし、会員数や契約金額が増えるにつれて就業中の事故やけがも多くなり、その対策が急務となっていました。

そのような中、いざという時のために応急手当の知識と技術を身に付けておくことが必要と考え、安全就業の一環として講習会を行うことになりました。

第1回講習会では「心肺蘇生法、止血法および搬送手段」について学び、受講者は27人でした。

平成17年からは年2回の開催とし、より多くの会員が受講できるようにするとともに、講習内容に「AED（自動体外式除細動器）の使用方法と異物除去」を追加、応急手当についてより深く学べるようにしました。

AEDは公共施設に設置されていることが多いため、そうした施設で就業している会員には積極的に受講してもらうようにしています。今まで受講した会員は延べ5

令和6年9月19日に開催した応急手当講習会には、11人が参加した

95人、会員だけでなく職員も受講し、不測の事態に備えています。また、知識や技術の定着を図るためにも3年に1回は受講するよう会員に促しています。

なお、受講者には、厚木市消防本部から修了証が交付されます。

講習会に参加して

総務省が公表している「令和5年版　救急・救助の現況」によると、令和4年の救急車の現場到着所要時間は全国平均で約10・3分でした。心肺停止の場合、時間の経過とともに助かる可能性は徐々に低下していくため、救急車の到着を待たずに1秒でも早く応急処置を始めることが必要となります。講習では、そんな一刻を争う状況でも、慌てず冷静に対処できるよう訓練で経験を積みます。

講習会ではダミー人形を使って胸骨圧迫（心臓マッサージ）の実地訓練を行いますが、胸を押す位置と深さ、押すテンポが難しく、受講者は苦戦している様子です。それでも会員は額に汗して、要領をつかむまで何度も練習しています。「目の前で、仲間や家族が倒れたらどうするか。ちゃんと助けられるのか」との思いで臨んでいるため、訓練にも熱が入ります。

応急手当を行う場面に出くわすことは、日常ではそうあるものではないでしょう。しかし、応急手当に関する知識と技術を身に付けておけば、万が一の時、誰かの命を助けられるかもしれません。一人でも多くできるようになれば、その分、助かる命が増えることになるのです。

センターでは、会員をはじめ、地域の皆さんにも救命について関心を持ってもらえるように活動を続けていきたいと思っています。

今後に向けて

近年は、猛暑によって熱中症が多発していることから、事故だけにとどまらず、状況に応じた救命措置が重要になっています。センターでは、内容を変えて講習会を開催することなども検討し、会員が安心・安全に就業できるよう、努めていきたいと考えています。

胸骨圧迫（心臓マッサージ）に加え、人工呼吸を実際に体験してみる

ダミー人形を使った胸骨圧迫訓練の様子。会員は汗をかきながら真剣に取り組んでいる

応急手当講習会ではＡＥＤの取り扱いも学ぶ。電気ショックを行うため、慎重に扱う必要がある